

利用者家族のケアも注力



やりがい聞いてみました

「介護職員になった 幸紀会医療福祉グループに新卒で入社しました。もともとは医療事務として、特別養護老人ホーム燦燦を運営するが、すぐに「自分には

向いていない」と感じ、悩んでしまいました。そんなとき、安江紀子理事長に「勉強がてら、デイサービスに行ってみたら」と勧めていただきました。それまで介護職に興味があったことはありませんでしたが、大好きな幸紀会を辞めたくなくなりました。

「このままずっと介護の仕事をした」と思うようになり、介護職員初任者研修が済んだタイミングで燦燦に移り、介護福祉士の国家資格を取得後はリーダーもさせていただいています。

やりがいは、

利用者の中には、寝たきりの方や、認知症が進行した方もいるのですが、いろいろなアプローチを続ける中で、良い変化が見られるとうれしいです。幸紀会では毎年、夏祭りを行っています。寝たきりの方であってもリクライニングの車いすに座ってもらって一緒に参加するようにしています。私たち介護

職員も当日は浴衣に着替えて利用者や家族と一緒に楽しめます。6、7年前のことなのですが、話せなくなっていた寝たきりの利用者が突然、「ありがとう」と言い、奥様の名前を呼びました。うれしくて泣く家族と一緒に私も大号泣でした。次の日にはまた元

の様子に戻りましたが、翌年の祭りでも少しだけ言葉を話すことができました。きっとおはよしの生演奏や舞台のにおいなど、本物に触れたことで昔の記憶を呼び起こすことができたのでしょう。

良くなっている姿を見届けられる病院とは違い、特養は体の機能が低下していく姿を受け入れながらケアをしていくことが多いのですが、その中でも良くなるタイミングはあります。少しの変化でも家族は喜んでくださいます。そんな特養の仕事が大好きです。

「働く際に気を付けていることは、

介護施設が一般的になった今でも「本当は自分が介護をしないといけないのに施設に入

れてしまった」と後ろめたな気持ちでいる家族もいます。私としては、負担を感じながら向き合おうのであれば、安全安心な環境に預

け、お見舞いの際に笑顔で関わるといい。良いこと取り」をしてください。という気持ちでいます。

そのため、家族に前向きになってもらうためのサポートは重要なことだと考えており、様子や良い変化を家族に知ってもらいたくて、お見舞いにもえたとときはコミュニケーションをとっています。そして「預けるかどうかで悩んだけれど、良い職員がいたら預けてよかった」と思っていただければ、こんなうれしいことはありません。利用者に言っていた「ありがとう」とは全く別のうれしさがありますね。

夏祭りが本格的!

今年も新型コロナウイルスの影響で開催できませんでしたが、地域の方や家族を招いて行う幸紀会医療福祉グループの夏祭りが自慢です。駐車場にやぐらが組まれ、郡上市のおはやしクラブの生演奏に合わせて盆踊りをして

います。来年また、これま



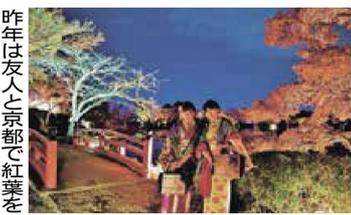
オフの姿

私も京都が大好きです。着物をレンタルして神社仏閣によく行って参りました。今年はコロナの影響で行けていませんが、通常の時期であれば最低でも年に3回は行っています。

その祖母と母は京都出身であることから、



リハビリを兼ねて洗濯物をたたく利用者と、笑顔で向き合っています。岐阜市鏡島南特別養護老人ホーム燦燦



昨年は友人と京都で紅葉を堪能。再び京都へ行く日を心待ちにしている。

職場の計らいで天職見つける

M.M さん

—特別養護老人ホーム燦燦・岐阜市—